

〈 留 萌 の 概 要 〉

管 内 の す が た

留萌管内は、北海道の北西部に位置しており、西部で日本海に面し、南北約130km、東西約60kmの南北に長い地域です。北は天塩川をはさんで宗谷地域に、南は増毛山地をはさんで石狩地域に、東は天塩山地をはさんで上川地域、空知地域に接しています。

管内の総面積は3,445.89km²で、北海道の総面積（83,423.83km²）の4.1%を占めており、この面積は、鳥取県の総面積（3,507.14km²）に匹敵する広さです。

中南部では海岸近くまで丘陵が迫る地形が多く、河川沿いに平坦地が分布する地形で、北部に北海道遺産「天塩川」などがあり、南北178kmに及ぶ海岸線は「日本海オロロンライン」として親しまれ、暑寒別天売焼尻国定公園などの景勝地を有する自然に恵まれた地域です。

管 内 の 沿 革

宝永3年（1706年）に、松前藩が増毛場所に家臣を置いて鮭漁業を経営させ、寛政年代（1789年頃）に増毛場所を下^{しものくにぶぜん}国豊前に、留萌場所・苫前場所・天塩場所を松前^{まつまえみつぐ}貢に命じて開拓したのが始まりと伝えられています。

その後、紀州の商人^{すはらかくべえ}栖原角兵衛、松前の商人^{むらやまでんべえ}村山伝兵衛、伊達林右衛門^{だてりんえもん}などが松前藩の請負人としてこの地方に入り、漁業を経営しました。

明治2年（1869年）7月に北海道開拓使が置かれ、行政区画の変遷を経て、明治30年（1897年）11月に増毛支庁が設置されました。

大正3年（1914年）9月に支庁を留萌町に移し、留萌支庁と改称され、昭和23年（1948年）10月には天塩郡豊富村を宗谷支庁に分離しました。

平成22年（2010年）4月に留萌支庁の名称は留萌振興局となり、幌延町が宗谷総合振興局の管轄となりました。

留 萌 の 教 育

管内の小・中学校の児童・生徒数は小学校1,412人、中学校823人で、管内人口の減少にともない、10年前と比べて約30%の減少となっています。

学級数や教職員数も減少し、平成26年度に20校あった小学校は17校に、14校あった中学校は11校になっています。

小学校の学級の約30%が10人以下の学級で、小・中学校全てがへき地校に指定されています。

高等学校は6校（道立5校、町立1校）で生徒数773人、特別支援学校が1校で生徒数28人となっており、私立の小・中学校、高等学校はありません。（令和6年4月1日現在）

小学校の特別支援学級数及び児童数は増加傾向にあり、一人一人の障がいの状況に応じて、個別の支援計画などが立てられるなど、きめ細やかな対応が得られる特別支援教育への理解が進んでいると考えられます。

また、管内には国指定の重要文化財、天然記念物が多数あり、教育局で文化財パトロールなど文化財の保存、保護、活用に関する業務を担っています。

管内教育の発展・充実に向けては、各市町村教育委員会及び学校が文部科学省や北海道教育委員会の指定を受けて、先導的、先進的な実践教育に積極的に取り組んでおり、令和5年度には国の指定等を5事業、道の指定等を14事業、実施しています。

教育局では管内教育を推進するため、毎年度、テーマ及び重点的な取組を定めており、令和6年度は推進の重点テーマを「子どもたちの可能性を最大限に引き出す環境の構築～幸福感や達成感を高め、持続可能な社会の創り手を育む留萌教育の推進～」とし、これを具体化していくために「未来を創造する子どもたちの育成」「安心・安全な教育環境の構築」「家庭・地域との協働の推進」の3つの柱のもと、管内の全ての子どもたちの健やかな成長に向け取り組んでまいります。